

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 洞北 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

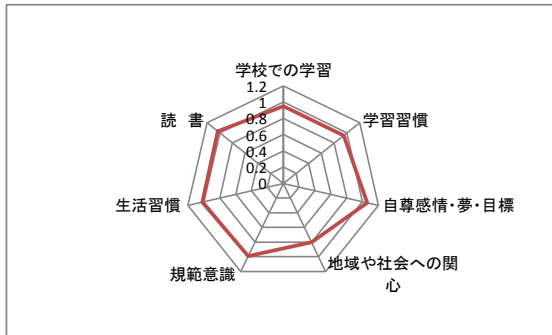
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに上回ることができた。書く力を問う問題はできていたが、自分の考えをもったり、伝えたりする力に課題が見られる。 ・授業や、学級活動の中で、積極的に話し合い活動取り入れたりするなど、話し合いの場を教師が積極的に提供をする必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	自分の考えにもったり、交流を通して自分の考えを広くすることについて正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率はわずかに下回っていたものの、北九州市の平均正答率は上回っていた。特に、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する問題は高かった。 ・根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて資料を効果的に活用して話す問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題は正答率・回答率ともに低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率はわずかに下回っていたものの、北九州市の平均正答率は上回っていた。計算問題など基礎的な部分ではできているが、文章から式を立てたり、扇形の弧の長さを求めたりと発展問題に対応する力が不足している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	正の数・負の数の問題や空間の平行について問われる問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	関数における比例定数の意味を問われる問題は無回答率が高かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていた。特に、事象が成り立つ式や問題を説明する力が不足している。特に、無回答率が高いことが目立った。ねばり強く問題に取り組む姿勢が求められる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた情報から必要な情報を選択する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	数学的な表現を解釈し、的確に処理する問題は正答率・回答率ともに低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・スマホ・携帯電話の所持率は増加したが、「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組により長時間使用している生徒の割合は減少した。 ・授業改善の取組により、授業の中で振り返る活動を行っていると回答している生徒の割合が増加した。また、話し合い活動を積極的に取り入れることで、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え自分から取り組む生徒が増えた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

調査結果から、授業の中で話し合い活動の時間や振り返りの時間を確保していることが分かる。しかし、深い学びにつながっているかということについては、生徒・教員両方のアンケート等の活用により検討する必要がある。話し合い、発表等のより一層の推進と学びの質を高める意識を教員にもたせるために校内研修を充実させる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

3年生になり、前年度よりも計画立てて勉強していること、家庭学習時間も増加したことが分析結果から伺える。本校で行っている1ページノート、天声人語の視写を一層充実させる。また、保護者にも目を通してもらい、協力体制を仰ぐ。